

受講生授業アンケート(2022年度)の集計結果について

調査活動WG長 武蔵 健裕

<はじめに>

2022年度前期および後期に実施しました受講生授業アンケートの結果についてご報告いたします。これまで本調査は「受講生満足度調査」という名称で実施して参りましたが、授業改善へ向けた本来の取り組みに対して、より合致する名称として「受講生授業アンケート」へと名称を変更いたしました。またアンケートの実施方法として、2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止策としてCourse Powerを用いた調査、2021年度は回答学生の特定防止策としてMicrosoft Formsを用いた調査を実施いたしました。2022年度からはAssessmentorを用いた調査へと変更が続き、これに伴い、Assessmentorを用いた新たな調査方法に対して学生用および教員用のマニュアルをそれぞれ作成いたしました。

新システムを用いて実際にアンケートを実施してみると、そもそもログインが上手く出来ない学生や、ログインするまでに想定以上の時間を要してしまう事などが発生しました。また結果の参照においては、前期調査では見慣れないグラフに対してご意見を頂くことが多くありましたが、後期調査には少しずつ慣れてきて頂いていると感じております。先生方から頂いたご意見については、委員会にて共有・検討し、改善して頂きたい点についてはシステム管理会社へ要望を届けております。2022年度は、新システム導入からアンケート調査実施までの時間が短い中、学生への操作指導からフィードバック(レスポンスシート作成)まで、授業改善へ向けた受講生授業アンケートへご協力いただきありがとうございました。この場をお借りして、深く感謝申し上げます。引き続きご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

<質問項目>

2019年度にはそれまで授業区分(講義・演習・実験実習)毎に分かれていたアンケートを1つにまとめて整理しました。この際、学生のパフォーマンス(知識・技能・態度)にどれだけ良い変化を及ぼしたのか、すなわち教育の成果を学生自身に自己評価してもらう質問項目を加えました。2020年度は急遽、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策としてWEB形式(Course Power)でアンケートを実施することとなったため、質問項目を少なくしましたが、却って授業の改善点が見えにくくなるといった反省点がございました。そこで、2021年度は遠隔授業が今後も残っていくという前提で再度、質問項目を見直し、自由記述を含めて10項目としました。2022年度も質問国目を大きく変化することなく、前年度と同様な内容で実施しました。ただし、自由記述(Q10)に授業改善の趣旨に反する教員への誹謗・中傷などが一部でみられたことから、注意を促す記述を追記しました。以下の表に旧質問項目との対応表をお示しします。旧アンケートでは質問項目が比較的近いものを対応させておりますが、完全に同じものではないことをご承知おください。また、自由記述(Q10)を除く質問項目(Q1~Q9)に対する回答は従来通り6段階からの選択式としておりますが、学生が選択しやすいように具体例を付けるなどの工夫も行っております。

表1 2022年度の質問項目と旧質問項目の対応表

2022年度	2021年度	2020年度	2019年度	～2018年度	
				講義	演習・実験
Q1.【学修時間】あなたは、この授業の学修を1週間で平均どの程度しましたか？ただし、この学修には教室等で授業を受けている時間や試験の準備に使った時間も含まれます。	Q1	Q1	Q1	Q3	Q5
Q2.【学修意欲】あなたは、この授業の到達目標を意識し、目標達成に向けて意欲的に学修に取り組みましたか？	Q2	Q2	Q2	Q2・Q4	Q4
Q3.【聴覚情報】教員の話し方(配信動画も含む)は明瞭で、聞き取りやすかったですか？	Q3		Q3	Q8	Q8・Q12
Q4.【視覚情報】板書、パワーポイント、配付資料、動画など、教員が独自に用意した視覚的な資料は分かりやすかったですか？	Q4	Q3	Q4	Q9・Q11	Q11・Q12
Q5.【理解度の把握】教員は、アンケート、小テスト、課題などを用いたり、質問を投げかけたりすることによって、学生の理解度を把握するように務めていましたか？	Q5	—	Q5	Q13	Q13
Q6.【フィードバック】教員から、あなたの学修成果に対する適切な評価や指導はありましたか？	Q6	—	—	—	Q9・Q10
Q7.【アクティブ・ラーニング】グループワーク、討議、プレゼンテーション、ミニッツペーパーなどで、自分の考えや疑問を他者(教員や他の学生)に発信する機会がありましたか？(自身が発信した、発信しなかったではなく、教員からそのような機会が与えられていたかどうかで判断してください。)	Q7	—	Q6	Q12	—
Q8.【パフォーマンスの変化】この授業を通して、新しい知識や技能、態度が身に付いたと感じますか？ ※この質問項目の結果は教員活動評価(査定)にも用いられます。	Q8	Q4	Q7	—	—
Q9.【満足度】総合的にみて、この授業に満足しましたか？ ※この質問項目の結果は教員活動評価(査定)にも用いられます。	Q9	Q5	Q8	Q16	Q15
Q10.【自由記述】この授業で良かった点があれば具体的に記載してください。また、改善して欲しい点がある場合も具体的に記載してください。(自由記述、200字以内) ※授業改善の趣旨に反する、単なる教員への誹謗、中傷などを記述した場合には、個人を特定し情報モラル教育の視点により指導することがありますので十分注意してください。	Q10	Q6	Q9・Q10	Q17・Q18	Q16・Q17

<回答者数および回収率>

2020年度からWEB形式でアンケートを実施し、回収率の低下が懸念されておりましたが、2020年度前期は約70%、後期は約63%と比較的高い値でした。2021年度から調査対象を原則、全科目へと拡大し(受講生が少ない旧カリなどの授業を除く)、Course PowerからMicrosoft Formsへとプラットフォームを変更してアンケートを実施いたしました。2022年度はAssessmentorを用い前年度と同様の方法で調査を実施しました。

ご承知のように、複数教員が関わる授業には、授業担当者が順番に入れ替わっていくオムニバス形式の授業と、チュートリアルや卒業研究のように学生をグループに分け、各グループに1名の教員がついて指導を行う形の授業があります。学生側からすると、前者(オムニバス形式)では教員毎に複数回アンケートに回答しなければなりませんが、後者(クラス分け形式)では1回だけのアンケートとなります。全ての複数教員が関わる授業についてどちらの形式なのかを把握することは不可能でしたので、1回でもアンケートに回答すれば、回答者としてカウントし、それをその授業の履修者で除する形で回収率を算出しました。例えば、表2-1の教員A、B、Cの3名によるオムニバス形式の授業ですと、1回でもアンケートに回答すれば回答者としてカウントしますので、回答者は学生a、b、cの3名となり、履修者数は4名ですのでアンケート回収率は75%というように計算いたしました。延べでカウントすると、6/12=回収率50%となるかと思いますが、授業形態の把握が困難でしたので、このような算出方法としております。

受講生授業アンケートを実施した授業数、履修者数、回答数、履修者数に対するアンケートの回収率を授業区分毎に表2-2にお示しします。上述のように計算を行っているため回答者数は少なくなっており、反対に、回収率の数値は若干高めにしている可能性があることをご承知のうえ、ご覧ください。

表2-1 オムニバス授業における回答数の計算例

	教員 A	教員 B	教員 C	回 答
学生 a	○	○	○	あり
学生 b	○	○	×	あり
学生 c	×	×	○	あり
学生 d	×	×	×	なし

表2-2 アンケート実施科目数、回答数と回収率

	授業区分	2022年度前期				2022年度後期			
		授業数	履修者数	回答者数	回収率	授業数	履修者数	回答者数	回収率
スタンダード・オプション科目	講義	71	4,941	3,396	68.7%	62	3,647	2,113	57.9%
	演習	12	664	594	89.5%	7	314	208	66.2%
	実験・実習	250	7,228	4,324	59.8%	112	4,622	2,885	62.4%
	小計	333	12,833	8,314	64.8%	181	8,583	5,206	60.7%
専門科目	講義	425	22,299	16,139	72.4%	352	18,795	12,740	72.4%
	演習	80	3,569	2,426	68.0%	128	6,262	3,642	68.0%
	実験・実習	137	4,429	2,769	62.5%	188	5,259	2,685	62.5%
	小計	642	30,297	21,334	70.4%	668	30,316	19,067	62.9%
教職科目	講義	10	300	222	74.0%	14	461	173	37.5%
	演習	-	-	-	-	-	-	-	-
	実験・実習	-	-	-	-	-	-	-	-
	小計	10	300	222	74.0%	14	461	173	37.5%
授業区分毎の合計	講義	506	27,540	19,757	71.7%	428	22,903	15,026	65.6%
	演習	92	4,233	3,020	71.3%	135	6,576	3,850	58.5%
	実験・実習	387	11,657	7,093	60.8%	300	9,881	5,570	56.4%
	合計	985	43,430	29,870	68.8%	863	39,360	24,446	62.1%

※実人数で算出（同一授業で教員毎に行っている場合、1授業1履修者としてカウント）

いて下さい。」と伝えて、教員が教室から去ってしまうと、このような強制力は働かず、どうしても回収率が低下してしまいます。2021年度は平均としては50～60%の値になっておりますが、科目間の回収率の差が大きく、同じ学科、学年でも、90%以上の回収率のある科目と非常に低い回収率の科目が混在しておりました。すなわち、回収率にはアンケート実施時の教員の行動が深く影響していることが推察されました。この反省点を踏まえて、2022年度はAssessmentorでのアンケート実施が開始され、「自己評価」の入力の続きに「授業アンケート」の入力があつた点や、Assessmentorへの入力方法を先生方が丁寧に指導したこと等から、回収率が上昇したと考えております。今後も回収率の高かった先生方に実施時の方法や工夫点をお伺いするなど、回収率をさらに上昇させる取り組みを実施したいと考えております。

<回答分布>

次に、表3～5に授業区分毎の設問内容とそれに対する回答数をお示しします。こちらは延べの回答数に基づいて計算しておりますので、合計の回答数が表2-2の値とは異なります。

表3 講義科目の設問と回答数 <共通・専門・教職 (n = 19,757)> <共通・専門・教職 (n = 15,026)>

	設 問	2022年度前期							2022年度後期						
		6	5	4	3	2	1	平均	6	5	4	3	2	1	平均
		大変そう思う まったくそう思わない							大変そう思う まったくそう思わない						
1. 学生の 自己評価	Q 1.【学修時間】	>5.5h	4.5-5.5h	3.5-4.5h	2.5-3.5h	1.5-2.5h	<1.5h	2.27	>5.5h	4.5-5.5h	3.5-4.5h	2.5-3.5h	1.5-2.5h	<1.5h	2.39
		539	517	1,332	3,552	9,185	4,628		501	567	1,186	2,775	7,053	2,943	
	Q 2.【学修意欲】	2.7%	2.6%	6.7%	18.0%	46.5%	23.4%	3.3%	3.8%	7.9%	18.5%	46.9%	19.6%		
3,670		7,430	6,555	1,596	317	160	4.61	3,232	5,833	4,396	1,123	285	137	4.68	
		18.6%	37.7%	33.2%	8.1%	1.6%	0.8%	21.5%	38.9%	29.3%	7.5%	1.9%	0.9%		
	Q 3.【聴覚情報】	5,023	8,331	4,743	1,162	334	133	4.82	4,206	6,341	3,429	698	222	90	4.89
25.5%		42.2%	24.0%	5.9%	1.7%	0.7%	28.1%		42.3%	22.9%	4.7%	1.5%	0.6%		
	Q 4.【視覚情報】	5,079	8,066	4,789	1,235	378	182	4.80	4,189	6,304	3,394	763	253	102	4.87
		25.7%	40.9%	24.3%	6.3%	1.9%	0.9%		27.9%	42.0%	22.6%	5.1%	1.7%	0.7%	
	Q 5.【理解度の把握】	4,845	8,153	5,128	956	443	211	4.78	4,076	6,376	3,524	652	241	133	4.87
		24.5%	41.3%	26.0%	4.8%	2.2%	1.1%		27.2%	42.5%	23.5%	4.3%	1.6%	0.9%	
	Q 6.【フィードバックの有無】	3,747	7,420	5,889	1,542	740	390	4.54	3,489	5,978	4,022	933	386	193	4.71
		19.0%	37.6%	29.9%	7.8%	3.8%	2.0%		23.3%	39.9%	26.8%	6.2%	2.6%	1.3%	
	Q 7.【アクティブ・ラーニング】	3,675	6,392	5,449	1,895	1,274	1,042	4.31	3,218	5,362	3,905	1,291	701	529	4.50
		18.6%	32.4%	27.6%	9.6%	6.5%	5.3%		21.4%	35.7%	26.0%	8.6%	4.7%	3.5%	
	Q 8.【パフォーマンスの変化】	5,078	8,730	4,932	596	256	126	4.88	4,227	6,617	3,512	401	164	91	4.94
		25.8%	44.3%	25.0%	3.0%	1.3%	0.6%		28.2%	44.1%	23.4%	2.7%	1.1%	0.6%	
	Q 9.【満足度】	5,155	8,603	4,805	720	292	140	4.87	4,180	6,574	3,480	490	195	91	4.92
		26.1%	43.6%	24.4%	3.7%	1.5%	0.7%		27.8%	43.8%	23.2%	3.3%	1.3%	0.6%	

表4 演習科目の設問と回答数 <共通・専門・教職 (n = 7,093)> <共通・専門・教職 (n = 5,570)>

	設 問	2022年度前期							平均	2022年度後期							平均
		6	5	4	3	2	1	6		5	4	3	2	1			
		大変そう思う まったくそう思わない								大変そう思う まったくそう思わない							
1. 学生の 自己評価	Q 1.【学修時間】	>5.5h	4.5-5.5h	3.5-4.5h	2.5-3.5h	1.5-2.5h	<1.5h	2.33	>5.5h	4.5-5.5h	3.5-4.5h	2.5-3.5h	1.5-2.5h	<1.5h	2.43		
		241	209	478	1,381	3,188	1,594		258	225	488	1,041	2,246	1,312			
		3.4%	2.9%	6.7%	19.5%	45.0%	22.5%		4.6%	4.0%	8.8%	18.7%	40.3%	23.6%			
2. 授業内容と 教員の評価	Q 2.【学修意欲】	1,519	2,767	2,123	490	126	58	4.69	1,390	2,189	1,483	336	83	79	4.76		
		21.4%	39.1%	30.0%	6.9%	1.8%	0.8%		25.0%	39.4%	26.7%	6.0%	1.5%	1.4%			
		1,934	3,093	1,571	360	83	34		1,647	2,416	1,182	217	54	44			
2. 授業内容と 教員の評価	Q 3.【聴覚情報】	27.3%	43.7%	22.2%	5.1%	1.2%	0.5%	4.90	29.6%	43.5%	21.3%	3.9%	1.0%	0.8%	4.94		
		1,880	3,113	1,644	304	102	35		1,608	2,381	1,213	240	66	45			
	Q 4.【視覚情報】	26.6%	44.0%	23.2%	4.3%	1.4%	0.5%	4.88	29.0%	42.9%	21.8%	4.3%	1.2%	0.8%	4.92		
		1,888	2,998	1,802	257	96	38		1,622	2,346	1,270	206	65	53			
	Q 5.【理解度の把握】	26.7%	42.4%	25.5%	3.6%	1.4%	0.5%	4.88	29.2%	42.2%	22.8%	3.7%	1.2%	1.0%	4.92		
		1,712	2,787	1,957	410	162	52		1,515	2,279	1,351	271	82	61			
2. 授業内容と 教員の評価	Q 6.【フィードバックの有無】	24.2%	39.4%	27.6%	5.8%	2.3%	0.7%	4.75	27.3%	41.0%	24.3%	4.9%	1.5%	1.1%	4.84		
		1,769	2,585	1,849	512	233	132		1,606	2,081	1,328	294	142	111			
	Q 7.【アクティブ・ラーニング】	25.0%	36.5%	26.1%	7.2%	3.3%	1.9%	4.67	28.9%	37.4%	23.9%	5.3%	2.6%	2.0%	4.79		
		1,976	3,048	1,723	218	68	34		1,655	2,417	1,251	136	48	51			
	Q 8.【パフォーマンスの変化】	28.0%	43.1%	24.4%	3.1%	1.0%	0.5%	4.93	29.8%	43.5%	22.5%	2.4%	0.9%	0.9%	4.96		
		1,989	3,088	1,636	232	85	33		1,598	2,450	1,240	171	60	45			
3. 総合評価	Q 9.【満足度】	28.2%	43.7%	23.2%	3.3%	1.2%	0.5%	4.93	28.7%	44.0%	22.3%	3.1%	1.1%	0.8%	4.94		

表5 実験・実習科目の設問と回答数 <共通・専門・教職 (n = 3,020)> <共通・専門・教職 (n = 3,850)>

	設 問	2022年度前期						平均	2022年度後期						平均
		6	5	4	3	2	1		6	5	4	3	2	1	
		大変そう思う			まったくそう思わない				大変そう思う			まったくそう思わない			
1. 学生の 自己評価	Q 1.【学修時間】	>5.5h	4.5-5.5h	3.5-4.5h	2.5-3.5h	1.5-2.5h	<1.5h	2.54	>5.5h	4.5-5.5h	3.5-4.5h	2.5-3.5h	1.5-2.5h	<1.5h	3.14
		215	139	293	594	961	817		500	327	476	935	1,113	498	
		7.1%	4.6%	9.7%	19.7%	31.8%	27.1%		13.0%	8.5%	12.4%	24.3%	28.9%	12.9%	
2. 授業内容と 教員の評価	Q 2.【学修意欲】	1,065	1,272	572	76	13	18	5.08	1,449	1,579	699	93	13	15	5.12
		35.3%	42.2%	19.0%	2.5%	0.4%	0.6%		37.7%	41.0%	18.2%	2.4%	0.3%	0.4%	
	Q 3.【聴覚情報】	1,035	1,279	546	122	28	3	5.05	1,375	1,591	714	116	40	10	5.07
		34.4%	42.4%	18.1%	4.0%	0.9%	0.1%		35.8%	41.4%	18.6%	3.0%	1.0%	0.3%	
	Q 4.【視覚情報】	970	1,254	646	107	21	17	4.99	1,282	1,617	775	119	38	9	5.03
		32.2%	41.6%	21.4%	3.5%	0.7%	0.6%		33.4%	42.1%	20.2%	3.1%	1.0%	0.2%	
	Q 5.【理解度の把握】	961	1,240	651	94	45	29	4.96	1,375	1,559	774	73	50	12	5.07
		31.8%	41.1%	21.6%	3.1%	1.5%	1.0%		35.8%	40.6%	20.1%	1.9%	1.3%	0.3%	
Q 6.【フィードバックの有無】	980	1,257	639	82	40	18	5.00	1,384	1,546	748	98	47	18	5.06	
	32.5%	41.7%	21.2%	2.7%	1.3%	0.6%		36.0%	40.2%	19.5%	2.6%	1.2%	0.5%		
Q 7.【アクティブ・ラーニング】	931	1,179	654	151	70	31	4.88	1,454	1,492	739	95	39	23	5.08	
	30.9%	39.1%	21.7%	5.0%	2.3%	1.0%		37.8%	38.8%	19.2%	2.5%	1.0%	0.6%		
3. 総合評価	Q 8.【パフォーマンスの変化】	1,217	1,275	470	42	5	3	5.21	1,523	1,615	618	54	26	6	5.18
		40.4%	42.3%	15.6%	1.4%	0.2%	0.1%		39.6%	42.0%	16.1%	1.4%	0.7%	0.2%	
	Q 9.【満足度】	1,195	1,281	476	44	18	2	5.19	1,474	1,593	660	76	31	10	5.14
39.6%	42.5%	15.8%	1.5%	0.6%	0.1%	38.3%	41.4%		17.2%	2.0%	0.8%	0.3%			

実験・実習科目は元々参加型の授業ですので、Q 7（アクティブ・ラーニング）が高いのは例年同様に当然と言える結果ですが、講義、演習科目よりもQ 2（学修意欲）が高く、実際に手を動かすことから意欲的に学修に取り組んでいる様子が窺えます。また、教員が学生一人ひとりに目を向けて、適切にフィードバックを与えていることも想像がつかます。Q 5（理解度の把握）やQ 6（フィードバックの有無）も高く、それらの総合結果として、Q 8（パフォーマンスの変化）、Q 9（満足度）も講義、演習科目より高い数値が出ているものと思われます。この結果は例年同様な傾向を示し、本学の特色の一つでもあると考えられます。

<アンケート結果の経年変化>

次に過去5年間のアンケート結果の経年変化を、授業区分毎に表6～8で示します。

表6 講義科目における全体平均値の推移（過去5年間分）

設問概要	2022前期 (n=19757)	2022後期 (n=15026)	2021	2021前期 (n=13952)	2021後期 (n=12009)	2020	2020前期 (n=5867)	2020後期 (n=4973)	2019	2019前期 (n=8715)	2019後期 (n=7063)	2018	2018前期 (n=8667)	2018後期 (n=8325)
Q 1.【学修時間】	2.27	2.39	Q 1	2.20	2.30	Q 1	2.74	2.61	Q 1	2.75	2.71	Q 3	2.92	2.91
Q 2.【学修意欲】	4.61	4.68	Q 2	4.50	4.62	Q 2	4.35	4.62	Q 2	4.43	4.36	Q 2	5.21	5.19
Q 3.【聴覚情報】	4.82	4.89	Q 3	4.93	5.00	Q 3	4.39	4.50	Q 3	4.86	4.77	Q 8	5.15	5.16
Q 4.【視覚情報】	4.80	4.87	Q 4	4.67	4.73	Q 3	4.39	4.50	Q 4	4.91	4.82	Q 11	5.14	5.19
Q 5.【理解度の把握】	4.78	4.87	Q 5	4.67	4.77	-	-	-	Q 5	4.79	4.76	Q 13	5.14	5.19
Q 6.【フィードバックの有無】	4.54	4.71	Q 6	4.39	4.54	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q 7.【アクティブ・ラーニング】	4.31	4.50	Q 7	4.30	4.44	-	-	-	Q 6	4.26	4.17	Q 12	4.82	4.88
Q 8.【パフォーマンスの変化】	4.88	4.94	Q 8	4.88	4.94	Q 4	4.69	4.72	Q 7	4.97	4.91	-	-	-
Q 9.【満足度】	4.87	4.92	Q 9	4.81	4.88	Q 5	4.86	4.83	Q 8	5.06	4.98	Q 16	5.34	5.33

表7 演習科目における全体平均値の推移（過去5年間分）

設問概要	2022前期 (n=7093)	2022後期 (n=5570)	2021	2021前期 (n=5445)	2021後期 (n=3338)	2020	2020前期 (n=849)	2020後期 (n=912)	2019	2019前期 (n=1307)	2019後期 (n=1056)	2018	2018前期 (n=888)	2018後期 (n=1032)
Q 1.【学修時間】	2.33	2.43	Q 1	2.26	2.47	Q 1	3.69	3.03	Q 1	3.70	3.14	Q 5	3.34	3.16
Q 2.【学修意欲】	4.69	4.76	Q 2	4.55	4.69	Q 2	4.26	4.92	Q 2	4.88	4.66	Q 4	5.33	5.35
Q 3.【聴覚情報】	4.90	4.94	Q 3	4.98	5.07	Q 3	4.60	4.90	Q 3	5.17	4.94	Q 8	5.18	5.20
Q 4.【視覚情報】	4.88	4.92	Q 4	4.70	4.78	Q 3	4.60	4.90	Q 4	5.20	4.94	Q 11	5.26	5.20
Q 5.【理解度の把握】	4.88	4.92	Q 5	4.71	4.83	-	-	-	Q 5	5.10	4.94	Q 13	5.22	5.34
Q 6.【フィードバックの有無】	4.75	4.84	Q 6	4.59	4.72	-	-	-	-	-	-	Q 9	5.20	5.22
Q 7.【アクティブ・ラーニング】	4.67	4.79	Q 7	4.39	4.64	-	-	-	Q 6	4.85	4.92	-	-	-
Q 8.【パフォーマンスの変化】	4.93	4.96	Q 8	4.83	4.96	Q 4	4.84	5.00	Q 7	5.30	5.16	-	-	-
Q 9.【満足度】	4.93	4.94	Q 9	4.81	4.90	Q 5	5.04	5.19	Q 8	5.36	5.21	Q 15	5.31	5.27

表8 実験・実習科目における全体平均値の推移（過去5年間分）

設問概要	2022前期 (n=3020)	2022後期 (n=3850)	2021	2021前期 (n=2712)	2021後期 (n=2840)	2020	2020前期 (n=240)	2020後期 (n=261)	2019	2019前期 (n=333)	2019後期 (n=730)	2018	2018前期 (n=346)	2018後期 (n=1088)
Q 1.【学修時間】	2.54	3.14	Q 1	2.67	3.33	Q 1	3.61	3.00	Q 1	3.40	3.65	Q 5	3.68	3.58
Q 2.【学修意欲】	5.08	5.12	Q 2	4.95	5.05	Q 2	5.30	5.06	Q 2	4.76	5.02	Q 4	5.52	5.53
Q 3.【聴覚情報】	5.05	5.07	Q 3	5.14	5.27	Q 3	4.71	4.87	Q 3	4.96	5.27	Q 8	5.30	5.49
Q 4.【視覚情報】	4.99	5.03	Q 4	4.92	4.97	Q 3	4.71	4.87	Q 4	4.87	5.18	Q 11	5.25	5.41
Q 5.【理解度の把握】	4.96	5.07	Q 5	4.89	5.04	-	-	-	Q 5	4.96	5.25	Q 13	5.44	5.58
Q 6.【フィードバックの有無】	5.00	5.06	Q 6	4.93	5.10	-	-	-	-	-	-	Q 9	5.36	5.48
Q 7.【アクティブ・ラーニング】	4.88	5.08	Q 7	4.78	5.07	-	-	-	Q 6	5.23	5.35	-	-	-
Q 8.【パフォーマンスの変化】	5.21	5.18	Q 8	5.11	5.26	Q 4	5.40	5.19	Q 7	5.24	5.36	-	-	-
Q 9.【満足度】	5.19	5.14	Q 9	5.11	5.17	Q 5	5.50	5.31	Q 8	5.20	5.41	Q 15	5.47	5.60

過去5年間の経過に目を向けると、2020年度は急遽遠隔授業を実施することとなり、受講生も教員もともに慣れない環境下での学習となり、それによって多少の結果の変動が認められました。しかし、対面授業から遠隔授業となっても、学修意欲はそれほど変わっていない結果となりました。学修時間については後述いたします。それ以外の大きな変化としては、Q3（聴覚情報）とQ4（視覚情報）があげられます。2020年度は上記の理由から、満足のいく授業を展開できなかった先生方も多かったのではないのでしょうか。2021年度はその苦い経験を活かし、また、対面授業も一部で復活したことで、より分かりやすい授業を工夫されたのだと思われます。2022年度も概ね同様な結果となり、様々な授業形態が存在するなかで、状況に合った実施や工夫が引き続き検討されているものと考えられます。

<学修時間>

次に、学修時間の推定値の推移（過去5年間分）を表9にお示しします。学修時間に関する設問は、2019年度までは授業外の学修時間を回答してもらっており、回答1：0時間、2：0.5時間、3：1.5時間、4：2.5時間、5：3.5時間、6：4.5時間と仮定して平均値を算出しました。2020年度は遠隔授業が実施されたため、トータルの学修時間を回答してもらっており、回答1：0.5時間、2：1.5時間、3：2.5時間、4：3.5時間、5：4.5時間、6：5.5時間と仮定しております。2021年度からは対面と遠隔が併用された授業が実施されたため、トータルの学修時間を回答してもらっており、回答1：1時間、2：2時間、3：3時間、4：4時間、5：5時間、6：6時間として学修時間を推定しました。

表9 学修時間の推定値（単位：時間、過去5年間）

	2022前期	2022後期	2021前期	2021後期	2020前期	2020後期	2019前期	2019後期	2018前期	2018後期
	トータル（授業時間を含む）						授業外学修			
講義	2.27	2.39	2.20	2.30	2.24	2.11	1.31	1.28	1.48	1.48
演習	2.33	2.43	2.26	2.47	3.19	2.53	2.23	1.68	1.88	1.73
実験・実習	2.54	3.14	2.67	3.33	3.11	2.50	1.94	2.16	2.20	2.10

2020年度以降は、トータルの学修時間ですから、それ以前よりも長くなっているのは当然ですが、プラス1時間程度にとどまっております。

次に、アンケートQ1で「選択肢1（1.5時間未満（例：教室でしか学修しておらず、授業外学修を全くしていない））」と回答した学生、および「選択肢2（1.5時間～2.5時間未満（例：授業90分＋授業外学修1時間弱））」と回答した学生の割合の推移を表10にお示します。

表10 授業外学修が1時間未満の学生の割合（過去5年間）

	授業外学修	2022前期	2022後期	2021前期	2021後期	2020前期	2020後期	2019前期	2019後期	2018前期	2018後期
講義	0 h	23.4%	19.6%	21.1%	17.9%	10.6%	12.3%	11.3%	12.8%	12.2%	13.9%
	0-1 h	46.5%	46.9%	52.1%	52.3%	41.0%	41.7%	38.3%	38.0%	33.0%	32.1%
演習	0 h	22.5%	23.6%	22.4%	15.2%	8.0%	9.2%	7.3%	9.4%	8.9%	13.0%
	0-1 h	45.0%	40.3%	46.9%	47.5%	22.7%	32.0%	20.4%	31.9%	22.9%	27.1%
実験・実習	0 h	27.1%	12.9%	24.7%	10.2%	2.9%	11.9%	7.5%	2.3%	4.1%	4.1%
	0-1 h	31.8%	28.9%	33.0%	28.9%	18.8%	33.7%	24.3%	17.4%	18.0%	21.5%

授業時間以外は全く学修していない（選択肢1）、と回答した学生が、2022年度はいずれの授業区分でも2割前後おり、2021年度よりもさらに上昇しています。授業外学修が1時間未満（選択肢2）の学生は、2021年度よりも減少してはいますが、講義、演習科目では4割程度います。これは2021年度から調査対象科目を全科目へと拡大した影響があると考えています。以前のように自分が担当している授業の中から、1つ選んでアンケートを実施する場合、どうしても良い結果が得られそうな、自信のある授業を展開している科目を選びたくなります。つまり、2020年度までの調査科目を選ぶ選択式で行っていたアンケートは「見たいものだけ見ていた」というバイアスが掛かった状態だったのかもしれません。2021年度と2022年度の結果より、「授業時間以外は全く学修していない学生」と「授業外で1時間程度しか学修していない学生」が合計5～7割もいるという状況が、学生の真の姿だとすると非常に大きな問題だと考えます。

先生方もご承知のことと思いますが、45時間程度の学修時間を要する内容で1単位です。1単位の講義、演習科目なら90分の授業15回と毎週1時間程度の自己学修でよいのですが、2単位の講義、演習科目では、毎週4時間程度の自己学修を課さなければなりません。ご自身が担当されている授業の単位数から、どの程度の自己学修時間を必要とするかをご判断頂き、自己学修を前提とした授業を設計して頂きたいと思っております。また、授業外学修時間が長くなると、自由記述で不満を述べる学生が多くなりますので、学生自身が単位数と学修時間の関係をあまり認識していないケースもあると思われます。ガイダンス等で単位制度の考え方、すなわち2単位の講義、演習科目を履修する場合には、その科目について毎週4時間程度の自己学修をするのが標準である、ということを繰り返し説明する必要もあるかと感じております。



<総合評価と学修態度および教授技量の関係>

総合評価（Q8、Q9）と学生の学修態度（Q1、Q2）や教授技量（Q3～Q7）の関係をお示しします。授業区分毎に分けると、実験・実習ではQ8、Q9の質問項目で低い数値をつけた学生が少なく比較が出来ないため、全授業区分における結果を示しております。

表11 総合評価（パフォーマンスの変化）と学生の学修態度および教授技量の関係（2022年度前期）

	計		6	5	4	3	2	1	平均	6・5群との差
			大変そう思う				まったくそう思わない			
Q8(6・5) 変化が大きい群	21,320	Q1.【学修時間】	855 4.0%	701 3.3%	1,593 7.5%	4,237 19.9%	9,600 45.0%	4,334 20.3%	2.40	
		Q2.【学修意欲】	5,981 28.1%	9,976 46.8%	4,529 21.2%	655 3.1%	102 0.5%	51 0.2%	4.98	
		Q3.【聴覚情報】	7,588 35.6%	10,546 49.5%	2,589 12.1%	456 2.1%	90 0.4%	22 0.1%	5.18	
		Q4.【視覚情報】	7,548 35.4%	10,473 49.1%	2,638 12.4%	486 2.3%	121 0.6%	31 0.1%	5.16	
		Q5.【理解度の把握】	7,337 34.4%	10,501 49.3%	2,839 13.3%	396 1.9%	160 0.8%	71 0.3%	5.14	
		Q6.【フィードバックの有無】	6,245 29.3%	10,148 47.6%	3,610 16.9%	800 3.8%	364 1.7%	132 0.6%	4.97	
		Q7.【アクティブラーニング】	6,158 28.9%	9,081 42.6%	3,489 16.4%	1,205 5.7%	820 3.8%	548 2.6%	4.79	
Q8(4・3)	7,978	Q1.【学修時間】	119 1.5%	153 1.9%	485 6.1%	1,232 15.4%	3,552 44.5%	2,437 30.5%	2.09	-0.32
		Q2.【学修意欲】	232 2.9%	1,411 17.7%	4,578 57.4%	1,396 17.5%	261 3.3%	95 1.2%	3.96	-1.02
		Q3.【聴覚情報】	362 4.5%	2,081 26.1%	4,165 52.2%	1,073 13.4%	236 3.0%	45 0.6%	4.14	-1.03
		Q4.【視覚情報】	348 4.4%	1,891 23.7%	4,352 54.6%	1,054 13.2%	258 3.2%	64 0.8%	4.10	-1.06
		Q5.【理解度の把握】	324 4.1%	1,822 22.8%	4,624 58.0%	841 10.5%	285 3.6%	75 0.9%	4.10	-1.03
		Q6.【フィードバックの有無】	175 2.2%	1,258 15.8%	4,780 59.9%	1,156 14.5%	441 5.5%	156 2.0%	3.89	-1.09
		Q7.【アクティブラーニング】	193 2.4%	1,031 12.9%	4,386 55.0%	1,293 16.2%	611 7.7%	452 5.7%	3.69	-1.10
Q8(2・1) 変化が小さい群	492	Q1.【学修時間】	19 3.9%	9 1.8%	23 4.7%	46 9.3%	147 29.9%	248 50.4%	1.89	-0.51
		Q2.【学修意欲】	32 6.5%	56 11.4%	116 23.6%	105 21.3%	93 18.9%	89 18.1%	3.11	-1.87
		Q3.【聴覚情報】	22 4.5%	44 8.9%	95 19.3%	112 22.8%	117 23.8%	102 20.7%	2.85	-2.32
		Q4.【視覚情報】	14 2.8%	38 7.7%	74 15.0%	105 21.3%	122 24.8%	138 28.0%	2.58	-2.58
		Q5.【理解度の把握】	19 3.9%	38 7.7%	99 20.1%	68 13.8%	138 28.0%	130 26.4%	2.66	-2.48
		Q6.【フィードバックの有無】	9 1.8%	28 5.7%	75 15.2%	72 14.6%	137 27.8%	171 34.8%	2.35	-2.62
		Q7.【アクティブラーニング】	9 1.8%	22 4.5%	55 11.2%	57 11.6%	144 29.3%	203 41.3%	2.13	-2.66

表13 総合評価（パフォーマンスの変化）と学生の学修態度および教授技量の関係（2022年度後期）

	計		6	5	4	3	2	1	平均	6・5群との差
			大変そう思う				まったくそう思わない			
Q8(6・5) 変化が大きい群	18,052	Q1.【学修時間】	1,116 6.2%	953 5.3%	1,614 8.9%	3,659 20.3%	7,720 42.8%	2,990 16.6%	2.62	
		Q2.【学修意欲】	5,851 32.4%	8,481 47.0%	3,033 16.8%	501 2.8%	105 0.6%	61 0.3%	5.07	
		Q3.【聴覚情報】	6,951 38.5%	8,901 49.3%	1,824 10.1%	279 1.5%	56 0.3%	12 0.1%	5.24	
		Q4.【視覚情報】	6,828 37.8%	8,962 49.6%	1,873 10.4%	276 1.5%	80 0.4%	10 0.1%	5.23	
		Q5.【理解度の把握】	6,809 37.7%	9,005 49.9%	1,825 10.1%	255 1.4%	102 0.6%	37 0.2%	5.22	
		Q6.【フィードバックの有無】	6,220 34.5%	8,858 49.1%	2,249 12.5%	448 2.5%	186 1.0%	74 0.4%	5.12	
		Q7.【アクティブラーニング】	6,100 33.8%	8,137 45.1%	2,247 12.4%	813 4.5%	437 2.4%	302 1.7%	4.98	
Q8(4・3)	5,972	Q1.【学修時間】	119 2.0%	154 2.6%	517 8.7%	1,047 17.5%	2,564 42.9%	1,571 26.3%	2.24	-0.38
		Q2.【学修意欲】	187 3.1%	1,076 18.0%	3,441 57.6%	978 16.4%	204 3.4%	79 1.3%	3.97	-1.10
		Q3.【聴覚情報】	251 4.2%	1,399 23.4%	3,429 57.4%	676 11.3%	161 2.7%	38 0.6%	4.13	-1.11
		Q4.【視覚情報】	227 3.8%	1,298 21.7%	3,458 57.9%	761 12.7%	179 3.0%	33 0.6%	4.09	-1.14
		Q5.【理解度の把握】	242 4.1%	1,230 20.6%	3,670 61.5%	618 10.3%	154 2.6%	47 0.8%	4.11	-1.11
		Q6.【フィードバックの有無】	152 2.5%	906 15.2%	3,812 63.8%	807 13.5%	212 3.5%	66 1.1%	3.96	-1.16
		Q7.【アクティブラーニング】	160 2.7%	763 12.8%	3,671 61.5%	828 13.9%	326 5.5%	213 3.6%	3.83	-1.16
Q8(2・1) 変化が小さい群	386	Q1.【学修時間】	23 6.0%	8 2.1%	16 4.1%	38 9.8%	116 30.1%	185 47.9%	2.00	-0.62
		Q2.【学修意欲】	27 7.0%	31 8.0%	92 23.8%	73 18.9%	72 18.7%	90 23.3%	2.96	-2.11
		Q3.【聴覚情報】	22 5.7%	30 7.8%	67 17.4%	73 18.9%	99 25.6%	94 24.4%	2.76	-2.49
		Q4.【視覚情報】	20 5.2%	28 7.3%	45 11.7%	84 21.8%	96 24.9%	113 29.3%	2.58	-2.65
		Q5.【理解度の把握】	5 3.9%	32 8.3%	68 17.6%	58 15.0%	100 25.9%	113 29.3%	2.61	-2.61
		Q6.【フィードバックの有無】	10 2.6%	26 6.7%	55 14.2%	44 11.4%	117 30.3%	132 34.2%	2.36	-2.76
		Q7.【アクティブラーニング】	12 3.1%	22 5.7%	49 12.7%	38 9.8%	117 30.3%	148 38.3%	2.26	-2.72

表12 総合評価（満足度）と学生の学修態度および教授技量の関係（2022年度前期）

	計		6	5	4	3	2	1	平均	6・5群との差
			大変そう思う		まったくそう思わない					
Q9(6・5) 満足度の高い群	21,308	Q1.【学修時間】	828 3.9%	689 3.2%	1,527 7.2%	4,183 19.6%	9,641 45.2%	4,440 20.8%	2.38	
		Q2.【学修意欲】	5,932 27.8%	9,976 46.8%	4,543 21.3%	671 3.1%	105 0.5%	54 0.3%	4.98	
		Q3.【聴覚情報】	7,679 36.0%	10,762 50.5%	2,430 11.4%	340 1.6%	45 0.2%	20 0.1%	5.20	
		Q4.【視覚情報】	7,668 36.0%	10,704 50.2%	2,512 11.8%	315 1.5%	66 0.3%	22 0.1%	5.20	
		Q5.【理解度の把握】	7,370 34.6%	10,507 49.3%	2,872 13.5%	343 1.6%	137 0.6%	63 0.3%	5.15	
		Q6.【フィードバックの有無】	6,238 29.3%	10,143 47.6%	3,747 17.6%	733 3.4%	328 1.5%	95 0.4%	4.98	
		Q7.【アクティブ・ラーニング】	6,107 28.7%	8,963 42.1%	3,694 17.3%	1,237 5.8%	771 3.6%	516 2.4%	4.79	
Q9(4・3)	7,909	Q1.【学修時間】	143 1.8%	164 2.1%	547 6.9%	1,268 16.0%	3,468 43.8%	2,319 29.3%	2.14	-0.24
		Q2.【学修意欲】	282 3.6%	1,386 17.5%	4,539 57.4%	1,364 17.2%	251 3.2%	83 1.0%	3.98	-1.00
		Q3.【聴覚情報】	269 3.4%	1,873 23.7%	4,309 54.5%	1,170 14.8%	242 3.1%	33 0.4%	4.08	-1.12
		Q4.【視覚情報】	227 2.9%	1,675 21.2%	4,459 56.4%	1,208 15.3%	276 3.5%	50 0.6%	4.03	-1.17
		Q5.【理解度の把握】	293 3.7%	1,809 22.9%	4,560 57.7%	1,116 11.1%	294 3.7%	69 0.9%	4.09	-1.06
		Q6.【フィードバックの有無】	177 2.2%	1,265 16.0%	4,623 58.5%	1,214 15.3%	456 5.8%	166 2.1%	3.87	-1.11
		Q7.【アクティブ・ラーニング】	237 3.0%	1,140 14.4%	4,151 52.5%	1,249 15.8%	640 8.1%	482 6.1%	3.70	-1.09
Q9(2・1) 満足度の低い群	570	Q1.【学修時間】	21 3.7%	10 1.8%	27 4.7%	65 11.4%	186 32.6%	261 45.8%	1.95	-0.43
		Q2.【学修意欲】	30 5.3%	81 14.2%	141 24.7%	120 21.1%	99 17.4%	98 17.2%	3.17	-1.81
		Q3.【聴覚情報】	21 3.7%	34 6.0%	110 19.3%	132 23.2%	157 27.5%	116 20.4%	2.74	-2.46
		Q4.【視覚情報】	10 1.8%	29 5.1%	92 16.1%	119 20.9%	158 27.7%	161 28.2%	2.47	-2.73
		Q5.【理解度の把握】	15 2.6%	49 8.6%	123 21.6%	84 14.7%	153 26.8%	145 25.4%	2.69	-2.46
		Q6.【フィードバックの有無】	13 2.3%	30 5.3%	89 15.6%	82 14.4%	157 27.5%	198 34.7%	2.36	-2.63
		Q7.【アクティブ・ラーニング】	15 2.6%	30 5.3%	85 14.9%	67 11.8%	165 28.9%	206 36.1%	2.32	-2.47

表14 総合評価（満足度）と学生の学修態度および教授技量の関係（2022年度後期）

	計		6	5	4	3	2	1	平均	6・5群との差
			大変そう思う まったくそう思わない							
Q9(6・5) 変化が大きい群	17,867	Q1.【学修時間】	1,089 6.1%	939 5.3%	1,575 8.8%	3,586 20.1%	7,697 43.1%	2,981 16.7%	2.61	
		Q2.【学修意欲】	5,803 32.5%	8,430 47.2%	2,972 16.6%	497 2.8%	85 0.5%	61 0.3%	5.07	
		Q3.【聴覚情報】	7,005 39.2%	8,919 49.9%	1,686 9.4%	188 1.1%	26 0.1%	11 0.1%	5.27	
		Q4.【視覚情報】	6,884 38.5%	8,978 50.2%	1,746 9.8%	197 1.1%	36 0.2%	5 0.0%	5.26	
		Q5.【理解度の把握】	6,808 38.1%	8,909 49.9%	1,760 9.9%	252 1.4%	80 0.4%	37 0.2%	5.23	
		Q6.【フィードバックの有無】	6,205 34.7%	8,742 48.9%	2,259 12.6%	415 2.3%	163 0.9%	67 0.4%	5.13	
		Q7.【アクティブ・ラーニング】	6,044 33.8%	7,959 44.5%	2,316 13.0%	803 4.5%	424 2.4%	305 1.7%	4.98	
Q9(4・3)	6,117	Q1.【学修時間】	149 2.4%	171 2.8%	554 9.1%	1,106 18.1%	2,570 42.0%	1,567 25.6%	2.29	-0.32
		Q2.【学修意欲】	229 3.7%	1,109 18.1%	3,497 57.2%	986 16.1%	208 3.4%	79 1.3%	3.99	-1.09
		Q3.【聴覚情報】	194 3.2%	1,394 22.8%	3,547 58.0%	765 12.5%	170 2.8%	32 0.5%	4.10	-1.18
		Q4.【視覚情報】	173 2.8%	1,299 21.2%	3,573 58.4%	831 13.6%	193 3.2%	29 0.5%	4.06	-1.20
		Q5.【理解度の把握】	239 3.9%	1,329 21.7%	3,717 60.8%	617 10.1%	165 2.7%	41 0.7%	4.12	-1.11
		Q6.【フィードバックの有無】	164 2.7%	1,024 16.7%	3,797 62.1%	820 13.4%	224 3.7%	69 1.1%	3.98	-1.15
		Q7.【アクティブ・ラーニング】	204 3.3%	943 15.4%	3,578 58.5%	823 13.5%	351 5.7%	207 3.4%	3.87	-1.11
Q9(2・1) 変化が小さい群	432	Q1.【学修時間】	19 4.4%	8 1.9%	20 4.6%	51 11.8%	137 31.7%	197 45.6%	1.99	-0.63
		Q2.【学修意欲】	30 6.9%	51 11.8%	103 23.8%	68 15.7%	88 20.4%	91 21.1%	3.06	-2.02
		Q3.【聴覚情報】	19 4.4%	27 6.3%	87 20.1%	77 17.8%	120 27.8%	101 23.4%	2.71	-2.56
		Q4.【視覚情報】	12 2.8%	18 4.2%	58 13.4%	94 21.8%	128 29.6%	222 28.2%	2.44	-2.82
		Q5.【理解度の把握】	15 3.5%	38 8.8%	87 20.1%	61 14.1%	110 25.5%	120 27.8%	2.67	-2.56
		Q6.【フィードバックの有無】	9 2.1%	31 7.2%	60 13.9%	66 15.3%	128 29.6%	136 31.5%	2.42	-2.72
		Q7.【アクティブ・ラーニング】	21 4.9%	25 5.8%	74 17.1%	53 12.3%	107 24.8%	151 35.0%	2.48	-2.49

表11および13より、パフォーマンスの変化が小さい群（Q 8（2・1））では、授業時間以外は学修していない（Q 1の選択肢1）と回答した学生が約半数おります。勉強していないので、当然ですがパフォーマンスはほとんど変化しないという結果に繋がっているものと思われるます。

表11～14は多くの数値が並んでいますので、比較しにくいと思われます。そこで、平均値だけを一部抜粋して作成したのが表15となります。

表15 パフォーマンスの変化と満足度に与える因子

	2022年度前期						2022年度後期					
	パフォーマンスの変化			満足度			パフォーマンスの変化			満足度		
	大きい	小さい	差	高い	低い	差	大きい	小さい	差	高い	低い	差
Q1.【学修時間】	2.40	1.89	-0.51	2.38	1.95	-0.43	2.62	2.00	-0.62	2.61	1.99	-0.63
Q2.【学修意欲】	4.98	3.11	-1.87	4.98	3.17	-1.81	5.07	2.96	-2.11	5.07	3.06	-2.02
Q3.【聴覚情報】	5.18	2.85	-2.32	5.20	2.74	-2.46	5.24	2.76	-2.49	5.27	2.71	-2.56
Q4.【視覚情報】	5.16	2.58	-2.58	5.20	2.47	-2.73	5.23	2.58	-2.65	5.26	2.44	-2.82
Q5.【理解度の把握】	5.14	2.66	-2.48	5.15	2.69	-2.46	5.22	2.61	-2.61	5.23	2.67	-2.56
Q6.【フィードバックの有無】	4.97	2.35	-2.62	4.98	2.36	-2.63	5.12	2.36	-2.76	5.13	2.42	-2.72
Q7.【アクティブ・ラーニング】	4.79	2.13	-2.66	4.79	2.32	-2.47	4.98	2.26	-2.72	4.98	2.48	-2.49

学修時間（Q 1）を見てみますと、パフォーマンスの変化の大きい群と小さい群の差は前期0.51、後期0.62を示し、満足度の高い群と低い群の差は前期0.43、後期0.63を示しています。パフォーマンスの変化は学修の成果ですので、相応の時間を学修に費やす必要性があり、学修時間が影響すると考えます。一方、満足度に関しては、前期にて差が小さい結果となりました。これは少し偏見があらうかと思いますが、「ほとんど勉強しなくても単位が取れた。だから満足だ。」と考える学生がいるのかもしれない。

教授技量（Q3～Q7）は、パフォーマンスの変化、満足度いずれにも大きく関係しております。視覚情報（Q3）と聴覚情報（Q4）は、満足度における差の方が、パフォーマンスの変化における差よりもごく僅かですが0.2ポイント程度大きくなっており、より満足度に与える影響が大きい、と考えられます。一方、僅かな差ですが、パフォーマンスの変化に強い影響力がありそうなのが、フィードバックの有無（Q6）です。やはり学生にやらせてみて、間違っていたらそれを修正する、ということを繰り返すことによって、学生がより良いパフォーマンスを発揮できるようになる、ということだと思われます。少し意外だったのが、Q7です。アクティブ・ラーニングとタイトルを付けていますが、質問事項は「グループワーク、討議、プレゼンテーション、ミニッツペーパーなどで、自分の考えや疑問を他者（教員や他の学生）に発信する機会がありましたか？（自身が発信した、発信しなかったではなく、教員からそのような機会が与えられていたかどうかで判断してください。）」というものです。先生方も経験があると思いますが、授業中に学生を当てて答えを求めると嫌がられることが多くあります。学生は発言の機会など求めているのかもしれないと思ってしまうかもしれませんが、アンケート結果はパフォーマンスの変化、満足度ともに発言の機会を与えることも重要であることを示しています。自分の考えや意見は持っている。しかし、それをみんなの前で発言するのは恥ずかしい、ということなのかもしれません。こういったことを考慮して、学生の考えや意見をうまく引き出す手法を工夫し続けることが必要と思われるます。

アンケートには自由記述もございますので、教授技量（Q3～Q7）に現れてこないような項目について改善点を指摘してくれる場合もあるかと思えます。授業の技術面だけでなく、学生の想いを記述してもらえる関係性を築くことや、学生とどう向き合うのかもとても重要なのだと思われます。

<まとめ>

2022年度はAssessmentorを用いてアンケートを実施いたしました。2021年度発生した、帰属不明のアンケートデータが生じる問題については解消されたと考えております。しかしAssessmentorの仕様上、1科目で1回だけのアンケートとなるため、複数教員が関与するオムニバス形式の授業などでは改善点が見えにくくなったという意見を頂きました。受講生にとっては一つの科目としての評価であり、授業改善へ向けて担当教員間での情報共有と連携がこれまで以上に求められるようになったと考えます。自由記載欄については、どの教員へ対するコメントかを記載するよう呼びかけるなど、工夫することで改善できる点もあると考えます。

2021年度から調査対象科目が全科目へと拡大され、2022年度も同様に調査を実施しました。手間が掛かるためにご不満に思われる先生方もまだいらっしゃると思いますが、従来の選択式の調査では見えてこなかった（あるいは、見ようとしなかった）部分も見えてくるようになり、大学全体としてより正しい方向に向かって改善できるようになると信じております。まだ2年間ということですが、データの蓄積が必要となりますが、調査の都度、授業改善へ向けて可能なことから早期に取り組むことを続けて参りましょう。

授業アンケート等により学生の意見を集め、その意見を参考にしながら授業の改善を進めていくことはとても重要です。また、授業を効果的に展開していくため、FD委員会ではこの受講生授業アンケートと併せて、授業参観ウィーク（教員相互の授業参観）、講演会、教授技術やコミュニケーション能力を磨く参加型研修会（ワークショップ）など様々なプログラムを用意しております。さらに、授業改善へ向けた相談にも委員会やワーキングで検討・対応してサポートして参りたいと考えております。教職員一丸となって教育方法を深化させるべく、今後ともFD活動への積極的な参加をお願い申し上げます。